国際バカロレアについて

平 成 31 年 3 月
文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局

1. 国際バカロレア(IB)について

国際バカロレア機構(本部ジュネーブ)が実施する国際的な教育プログラム。

同機構は、1968年、インターナショナルスクールの卒業生に、国際的に認められる大学入学資格(国際バカロレア資格)を与え、大学進学へのルートを確保するとともに、学生の柔軟な知性の育成と国際理解教育の促進に資することを目的として発足。

認定校に対する共通カリキュラムの作成や、国際バカロレア試験、国際バカロレア資格の授与等を実施。

2. IBのプログラムについて

グローバル化に対応できるスキルを身に付けた人材を育成するため、生徒の年齢に応じて、以下の教育プログラムを提供。

平成31年3月28日時点、世界153以上の国・地域、5，311校において実施。

(1)プライマリー・イヤーズ・プログラム(PYP) 【1，790校 (国内:36校)】

3歳～12歳を対象として、精神と身体の両方を発達させることを重視したプログラム。どのような言語でも提供可能。

(2)ミドル・イヤーズ・プログラム(MYP) 【1，563校 (国内:18校)】

11歳～16歳を対象として、青少年に、これまでの学習と社会のつながりを学ばせるプログラム。どのような言語でも提供可能。

(3)ディプロマ・プログラム(DP) 【3，448校 (国内:45校)】

16歳～19歳を対象としたプログラムであり、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格(国際バカロレア資格)が取得可能。原則として、英語、フランス語又はスペイン語で実施。

(4)キャリア関連プログラム(CP) 【220校(国内:-校)】

16～19歳を対象として生涯のキャリア形成に役立つスキルの習得を重視したキャリア教育・職業教育に関連したプログラム。一部科目は、英語、フランス語又はスペイン語で実施。

3. 我が国における取組等

(1)我が国では昭和54年より、大学入学資格に関し、学校教育法に基づき、国際バカロレア資格を有する者で18歳に達した者を、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として指定。

(2)平成25年度からは、国際バカロレア機構との協力の下、DPの科目の一部※を日本語でも実施可能とする「日本語DP」の開発・導入に着手。

※日本語で実施可能な科目は、以下の通り。
経済、地理、歴史、生物、化学、物理、数学、数学スタディーズ、音楽、美術、
知の理論(TOK)、課題論文(EE)、創造性・活動・奉仕(CAS)

（参考）日本語ＤＰによるＩＢ校の認定等に関するスケジュールの例
・平成２７年　２月　　ＩＢから、最初の日本語ＤＰによるＩＢ校認定（同年４月に１年生入学）
・平成２７年　４月　　一部の認定校で、２年生より日本語ＤＰ課程開始
・平成２８年１１月　　同校で、３年生が国際バカロレア試験を受験（平成２９年３月卒業）

（3）平成25年7月から、国際バカロレア日本アドバイザリー委員会において、日本におけるIBの導入拡大に向けた課題と対応方策について検討を行い、平成26年4月、そのための提言（報告書）を取りまとめ。提言を踏まえ、DPの導入を促進するための教育課程の特例措置の新設等を実施。

（4）平成29年3月から、国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議を実施し、日本における国際バカロレア推進の在り方、そのための課題や対応方策について検討を進め、平成29年5月に中間取りまとめを実施。

（5）平成30年度より、国際バカロレアの国内推進体制の整備事業において「文部科学省IB教育推進コンソーシアム」を発足。コンソーシアムのIBに知見を有する者によって構成された関係者協議会では、国内の国際バカロレアの普及に係る取組を検討し、1条校等での国際バカロレアの導入・運営に対する効果的な支援を行う等の機能をもつ、持続的な普及促進体制の核となる枠組みを構築。

（6）現在、文部科学省において、IBの導入拡大に向け、以下の取組を推進。
・必要な教員の確保に向けた取組（外国人に対する特別免許状授与の促進等）
・DPの導入を促進するための教育課程の特例措置の新設
・「国際バカロレア認定のための手引き」の作成・普及
・国内の大学入試におけるIBの活用促進
・IBに関する情報提供・発信　等

4. 国際バカロレアの推進に関する提言等（抜粋）

(1)日本再興戦略

○「日本再興戦略　-JAPAN is BACK-」　　（平成25年6月14日　閣議決定）

「一部日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す（2018年までに200校）。」

(2)まち・ひと・しごと創生総合戦略

○「まち・ひと・しごと創生基本方針 2015」　　（平成27年6月30日 閣議決定）

「国際的に通用する大学入学資格が取得可能な教育プログラム（国際バカロレア・ディプロマ・プログラム）については、科目の一部を日本語で実施しても認定可能となるプログラムの開発に引き続き取り組む。」

○「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2017改訂版）　　（平成29年12月22日閣議決定）

「国際的に通用する大学入学資格が取得可能な教育プログラム（国際バカロレア）の普及拡大を図り、2020年までに国際バカロレア認定校等を200校以上に増やす（2014年の74校

から2017年10月現在で115校に増加）。」

(3)教育再生実行会議

〇第三次提言 「これからの大学教育等の在り方について」　（平成25年5月28日）

「国は、国際バカロレア認定校について、一部日本語によるディプロマ・プログラムの開発・導入を進め、大幅な増加(16校→200校)を図る。」

〇第四次提言 「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」（平成25年10月31日）

「大学は、入学者選抜において国際バカロレア資格及びその成績の積極的な活用を図る。国は、そのために必要な支援を行うとともに、各大学の判断による活用を促進する。」

〇第七次提言 「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について」（平成27年5月14日）

「国際バカロレア認定校を大幅に増加させる。」

(4)日本経済団体連合会

〇「世界を舞台に活躍できる人づくりのために」
―グローバル人材の育成に向けたフォローアップ提言―　（平成25年6月13日）

「語学力のみでなく、コミュニケーション能力や異文化を受容する力、論理的思考力、課題発見力などが身に着くIBディプロマ課程(16歳～19歳対象)は、グローバル人材を育成する上で有効な手段の一つである。」

「ディプロマ取得者に対する社会における適切な評価も重要であり、大学入試における活用や、企業も採用時や人材活用において適切に評価することなどが重要である。」

「我が国においても、入試の際、TOEFLやTOEICなどの英語能力の4技能を測定できる外部試験を活用することや、入試においてIB資格を活用する大学を拡大することなども検討すべきである。」

〇「次代を担う人材育成に向けて求められる教育改革」　（平成26年4月15日）

「グローバル化に対応するためには外国語能力とともに、課題を発見し解決する能力や論理的思考力、コミュニケーション能力、さらに日本の近現代史に関する知識を含む幅広い教養を育む必要がある。政府も、英語力に加え、問題解決能力や社会課題に関する深い関心と教養を身につけたリーダー人材を育成する「スーパーグローバル・ハイスクール」の認定（2014年度56校）や、国際バカロレア（IB）課程教育を行うIB認定校の拡大（2018年度までに200校へ）など、グローバル人材育成のため、教育機関の創意工夫や特色を活かした教育を推進する方針を打ち出している。こうした取り組みを更に拡大するとともに、横展開させる必要がある。IBを教授できる人材の育成・確保が喫緊の課題であり、教員養成大学等において迅速に取り組むことが求められる。」

〇「今後の教育改革に関する基本的考え方」
－第３期教育振興基本計画の策定に向けて－　（平成28年4月19日）

「グローバル人材に求められる素質や能力を育む上で、国際バカロレア(IB)教育は有効であり、その普及に向けた政府目標を達成すべきである。具体的には、①IB 課程を教授できる教員の確保・養成（教員養成大学におけるIB教授コースの新設・拡大）、②わが国の大学入試におけるIB ディプロマ資格の活用促進、③IB 課程と学習指導要領の要件の双方を無理なく取

得するための制度の新設が必要である。また家計が少ない経済負担で子弟にIB 教育を受けさせられるよう、国公立高校においてIB 教育を普及させることも重要である。IB 教育の普及は、国内で働く外国人人材の子弟の教育環境の整備にも繋がる。」

(5)国立大学協会

○国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン 工程表 （平成27年9月14日）

入試改革の一環として、「推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の拡大（入学定員の30%を目標）」を行うとしている。

(6) 日米文化教育交流会議（CULCON）

○日米文化教育交流会議（CULCON）教育タスクフォース報告書 （平成25年6月13日）

「国際バカロレア資格を取得可能なプログラムを拡充する。」

5. 国際バカロレアの推進関連リンク

●文部科学省IB教育推進コンソーシアム

https://ibconsortium.mext.go.jp/（日本語）

https://ibconsortium.mext.go.jp/en/（英語）

●国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会（平成30年9月末にて終了。連絡協議会の役割はコンソーシアムへの発展的に継承）

http://lc-ibdldp.jp/

●国際バカロレア機構

http://www.ibo.org/（英語）

http://www.ibo.org/ibap/schoolservices/ibjapangateway.cfm（日本語）

付録（IB関連の基礎資料）

資料１：日本語DPカリキュラムについて

資料２：国内のIB認定校一覧、IB認定校の所在地、
IB認定校等数の推移

資料３：IBを活用した大学入試について

資料４：２０１９年度文部科学省予算「国際バカロレアの推進」

資料５：コンソーシアム概要

資料６：国際バカロレアに関する公式の日本語資料一覧

資料1　ＤＰのカリキュラム

【文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局調べ】
（平成31年　3月現在）

① 各グループから1科目ずつ選択し、計6科目を2年間で履修。ただし、グループ6（芸術）は他のグループからの科目に代えることも可能。6科目のうち、3～4科目を上級レベル（HL,各240時間）、その他を標準レベル（SL,各150時間）として履修。

グループ名	科目例
1 言語と文学（母語）	言語A：文学、言語A：言語と文学、文学と演劇※
2 言語習得（外国語）	言語B、初級語学、古典語学
3 個人と社会	ビジネス、経済、地理、グローバル政治、歴史、心理学、環境システム社会※ 情報テクノロジーとグローバル社会、哲学、社会・文化人類学、世界の宗教、
4 理科	生物、化学、物理、デザインテクノロジー、環境システムと社会※ コンピュータ科学、スポーツ・運動・健康科学
5 数学	（旧カリキュラム・2020年11月の試験までの実施） 数学スタディーズ、数学SL、数学HL、数学FHL （新カリキュラム・2021年より試験実施） 数学 Analysis(HL)、数学 Analysis(SL)、 数学　Application(HL)、数学 Application(SL) ＊新カリキュラムは日本語でも指導可能
6 芸術	音楽、美術、演劇　、ダンス、フィルム、文学と演劇※

※なお、「文学と演劇」はグループ1と6の横断科目。「環境システムと社会」はグループ3と4の横断科目。
また、「世界の宗教」および「スポーツ・運動・健康科学」はSLのみ。

② また、プログラムの「コア」となる、次の3つの必修要件を履修。

課題論文（EE: Extended Essay）：履修科目に関連した研究分野について個人研究に取り組み、成果を4,000語（日本語の場合は8,000字）の論文にまとめる。

知の理論（TOK: Theory of Knowledge）：「知識の本質」について考え、「知識に関する主張」を分析し、知識の構築に関する問いを探究する。批判的思考を培い、生徒が自分なりのものの見方や、他人との違いを自覚できるよう促す。最低100時間の学習。

創造性・活動・奉仕（CAS: Creativity/Activity/Service）：創造的思考を伴う芸術などの活動、身体的活動、無報酬で自発的な交流活動といった体験的な学習に取り組む。

③ DP資格の取得には、上記を全て履修し、外部評価（国際バカロレア試験等）及び内部評価を通じて、原則として45点満点中24点以上を取得することが必要。配点は、6科目につき各7点（計42点）、3つの必修要件で計3点。

※「日本語DP」について

DPの授業・試験は、原則として、英語、フランス語又はスペイン語で行う必要があるが、その一部科目を、日本語で実施可能とするプログラム。□内の科目と必修要件が、日本語でも実施可能。なお、日本語DPでも、6科目中2科目（通常、グループ2（外国語）に加えて更に1科目）は、英語等で履修する必要がある。

資料２－１

【文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局調べ】

国際バカロレアの認定校

（平成31年3月28日時点）

全72校 （うち PYP実施校 36校 MYP実施校 18校 DP実施校 45校）
＊1校で複数のプログラムを実施している学校があるため、プログラム毎の校数の合計は全体の校数と一致しない

	学校名	所在地	PYP	MYP	DP
1	※市立札幌開成中等教育学校	北海道		○	◎
2	※仙台育英学園高等学校	宮城県		○	◎
3	東北インターナショナルスクール	宮城県	○		
4	※秀光中等教育学校	宮城県		○	
5	つくばインターナショナルスクール	茨城県	○	○	○
6	※茗渓学園高等学校	茨城県			◎
7	※開智望小学校	茨城県	○		
8	※ぐんま国際アカデミー	群馬県			○
9	※昌平中学校	埼玉県		○	
10	※筑波大学附属坂戸高等学校	埼玉県			◎
11	アオバジャパン・インターナショナルスクール	東京都	○	○	○
12	アオバジャパン・バイリンガルプリスクール晴海	東京都	○		
13	アオバジャパン・バイリンガルプリスクール芝浦	東京都	○		
14	アオバジャパン・バイリンガルプリスクール早稲田	東京都	○		
15	インディア・インターナショナルスクール・イン・ジャパン	東京都			○
16	※開智日本橋中学・高等学校	東京都		○	◎
17	カナディアン・インターナショナルスクール	東京都	○		
18	K・インターナショナルスクール	東京都	○	○	○
19	サマーヒルインターナショナルスクール	東京都	○		
20	シナガワインターナショナルスクール	東京都	○		
21	清泉インターナショナルスクール	東京都	○		○
22	セント・メリーズ・インターナショナルスクール	東京都			○
23	※玉川学園中学部・高等部	東京都		○	○
24	東京インターナショナルスクール	東京都	○	○	
25	※東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都		○	◎
26	※東京都立国際高等学校	東京都			○
27	みずほスクール	東京都	○		
28	ウィロ―ブルックインターナショナルスクール	東京都	○		
29	※武蔵野大学附属千代田高等学院	東京都			◎
30	町田こばと幼稚園	東京都	○		
31	※神奈川県立横浜国際高等学校	神奈川県			◎
32	サンモール・インターナショナルスクール	神奈川県			○
33	ホライゾン･ジャパン･インターナショナル･スクール	神奈川県			○
34	横浜インターナショナルスクール	神奈川県	○	○	○
35	※法政大学国際高等学校	神奈川県			◎
36	※聖ヨゼフ小学校	神奈川県	○		
37	※山梨学院幼稚園	山梨県	○		

38	※山梨学院小学校	山梨県	○		
39	※山梨学院高等学校	山梨県			◎
40	※インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢	長野県			○
41	インターナショナルスクールオブ長野	長野県	○		
42	※松本国際高等学校	長野県			◎
43	※サニーサイドインターナショナルスクール	岐阜県	○		
44	※加藤学園暁秀高等学校・中学校	静岡県		○	○
45	アブロード・インターナショナルスクール名古屋	愛知県	○		
46	名古屋国際学園	愛知県	○	○	○
47	※名古屋国際高等学校	愛知県			○
48	※東海学園高校	愛知県			◎
49	※滋賀県立虎姫高等学校	滋賀県			◎
50	京都インターナショナルスクール	京都府	○		
51	※同志社国際学院初等部	京都府	○		
52	同志社インターナショナルスクール国際部	京都府	○		○
53	※立命館宇治高等学校	京都府			○
54	アブロード・インターナショナルスクール大阪	大阪府	○		
55	大阪 YMCA インターナショナルスクール	大阪府	○		
56	関西学院大阪インターナショナルスクール	大阪府	○	○	○
57	コリア国際学園	大阪府			◎
58	※大阪女学院高等学校	大阪府			◎
59	カナディアン・アカデミー	兵庫県	○	○	○
60	関西国際学園	兵庫県	○		
61	神戸ドイツ学院	兵庫県	○		
62	マリスト国際学校	兵庫県			○
63	※AIE 国際高等学校	兵庫県			◎
64	※岡山理科大学附属高等学校	岡山県			◎
65	※英数学館高等学校	広島県			◎
66	※AICJ高等学校	広島県			○
67	広島インターナショナルスクール	広島県	○	○	○
68	福岡インターナショナルスクール	福岡県	○		○
69	※リンデンホールスクール中高学部	福岡県			○
70	※福岡第一高等学校	福岡県			◎
71	オキナワインターナショナルスクール	沖縄県	○	○	
72	※沖縄尚学高等学校	沖縄県			◎
	合 計		36校	18校	45校

※・・・学校教育法第1条に規定されている学校（36校）　◎・・・日本語DP実施校（20校）

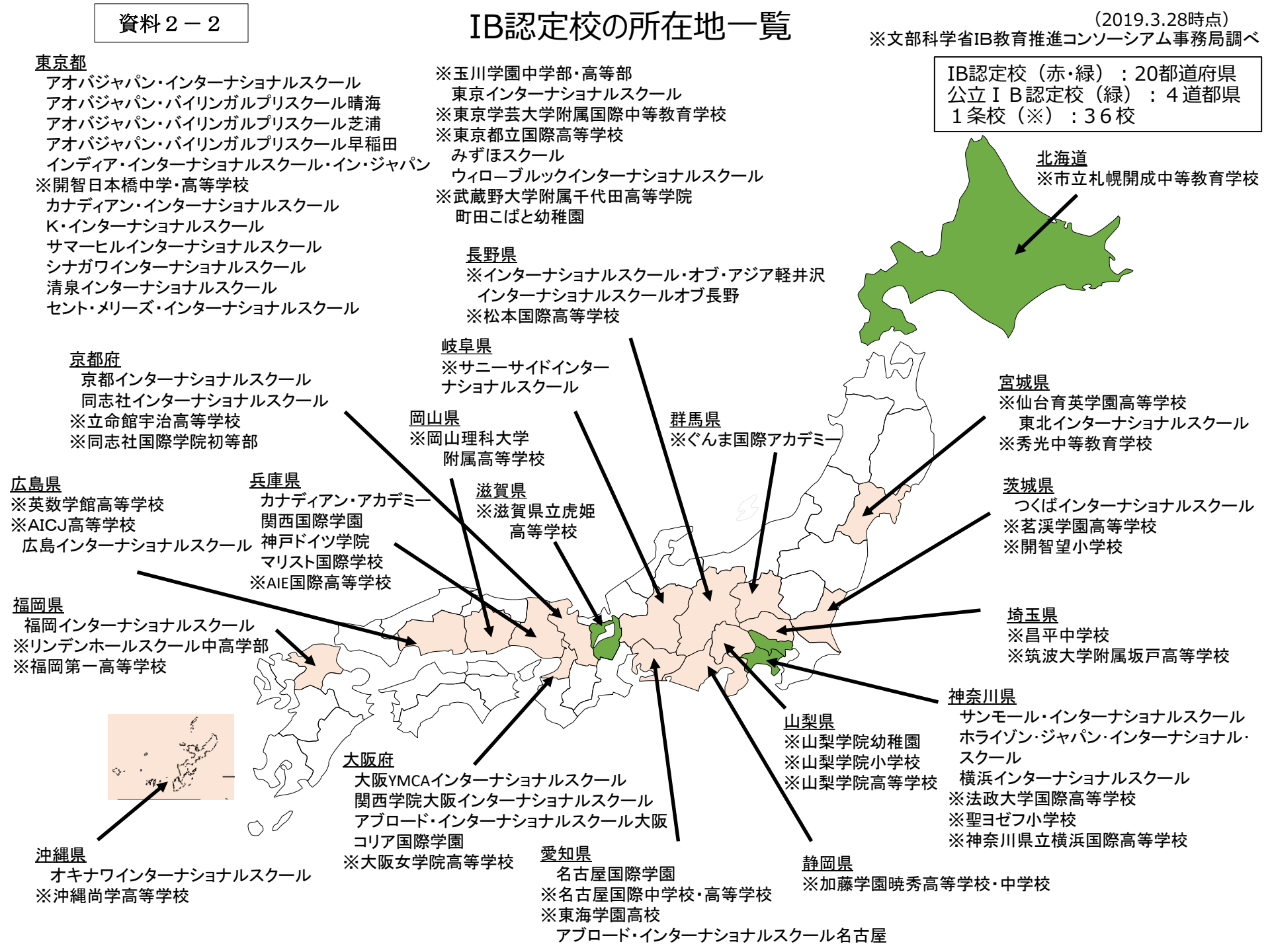
（参考）認定校等数　139校
PYP　認定校36校　候補校等18校
MYP　認定校18校　候補校等　9校
DP　認定校45校　候補校等13校

資料２－２

IB認定校の所在地一覧

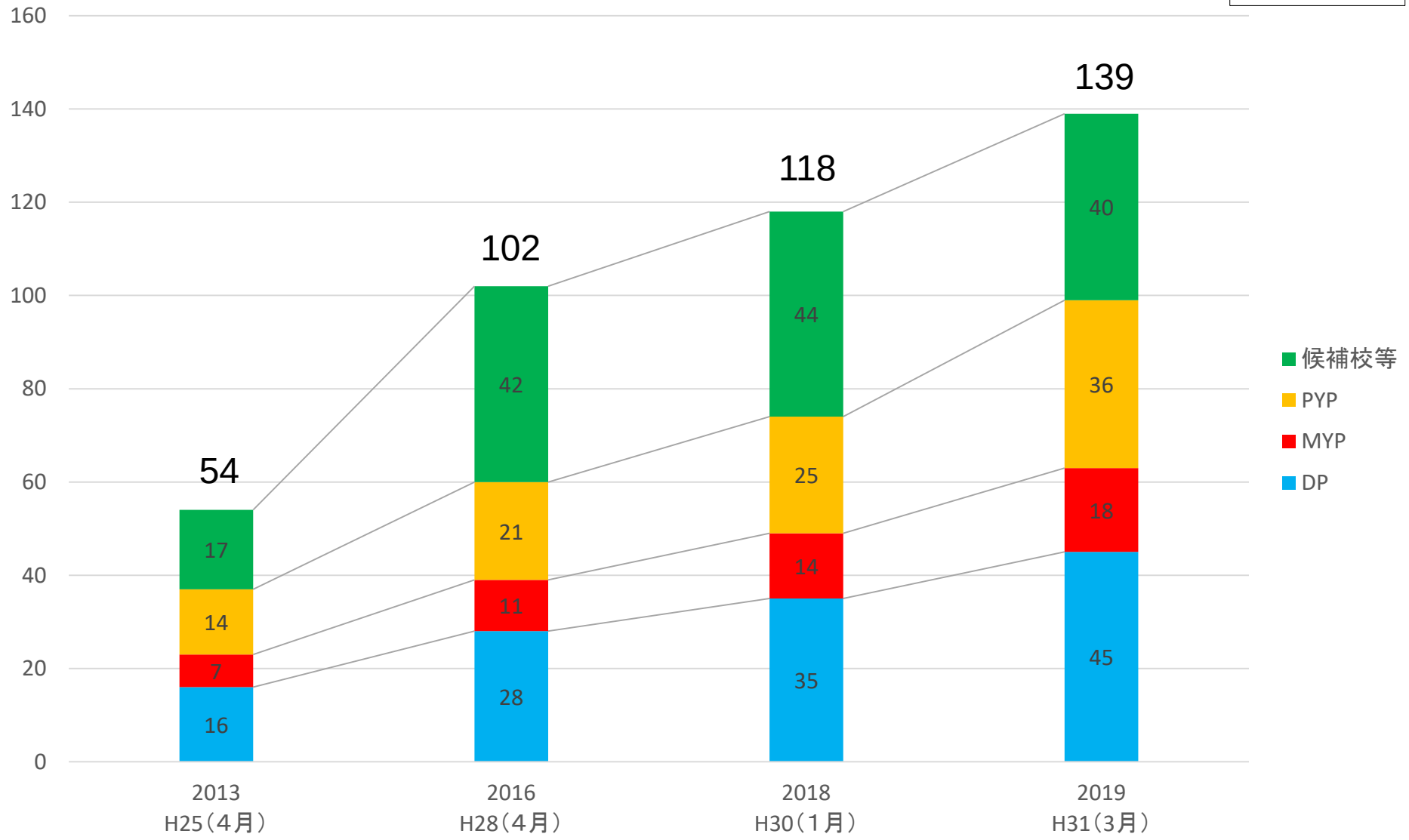
（2019.3.28時点）
※文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局調べ

IB認定校（赤・緑）：20都道府県
公立ＩＢ認定校（緑）：４道都県
１条校（※）：３６校



日本国内の国際バカロレア（IB）認定校等数の推移

資料２－３



※PYP：プライマリー・イヤーズ・プログラム（3～12歳）、MYP：ミドル・イヤーズ・プログラム（11～16歳）、
DP：ディプロマ・プログラム（16～19歳）
※1校で複数のプログラムを実施している学校があるため、プログラムごとの学校数の合計は全認定校数と一致しない。

※文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局調べ

資料３

ＩＢを活用した大学入試について

全学部実施（36大学）

会津大学
浦和大学
お茶の水女子大学
岡山大学
鹿児島大学
金沢大学
関西学院大学
京都外国語大学
京都工芸繊維大学
倉敷芸術大学
工学院大学
神戸女学院大学
国際基督教大学
国際教養大学
芝浦工業大学
西南学院大学
創価大学
玉川大学
千葉科学技術大学
中京大学
筑波大学
東京医科歯科大学
東京外国語大学
東京学芸大学(H32より)
東京国際大学
東北福祉大学
東洋大学
豊橋技術科学大学
名古屋大学
日本工業大学
日本獣医生命科学大学
ビジネス・ブレークスルー大学
松本歯科大学
武蔵野学院大学
横浜市立大学
立命館アジア太平洋大学

一部学部実施（25大学）

愛知医科大学
青山学院大学
大阪市立大学
大阪大学
学習院大学
京都大学
近畿大学
慶應義塾大学
首都大学東京
順天堂大学
中央大学
都留文科大学
東京藝術大学
東京大学
東北大学
長崎大学
日本体育大学
広島大学
北海道大学
法政大学
武蔵野大学
明海大学
明治学院大学
立教大学
立命館大学

計61大学

【注】
・日本の学校の卒業生を対象としているものを記載（帰国生や留学生に対象を限定しているものを除く）
・下線はIB資格取得者・取得予定者のみを対象とした入試を実施している大学
・各大学へのアンケートに基づき文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局にて作成したもので、必ずしも全ての情報を網羅しているわけでは　ありません。（平成30年12月時点）

※文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局調べ

国際バカロレアの推進

資料４

2019年度予算額	９１百万円
前年度予算額	９１百万円

国際バカロレア（IB）について

・国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラム。課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成。世界140以上の国・地域、5，119校で実施（2018年4月現在）。

・高校レベルのディプロマ・プログラム（DP）は、国際的に通用する大学入学資格（IB資格）が取得可能であり、世界の大学入学者選抜で広く活用。また、幼稚園、小学校、中学校レベルのプライマリー・イヤーズ・プログラム（PYP）、ミドル・イヤーズ・プログラム（MYP）を含め、我が国のグローバル人材育成等に資する。

・我が国において更なるIBの普及を進めるためには、導入・運営に対する効果的な支援が必要。

国際バカロレア認定校等を2020年度までに200校以上

未来投資戦略2018（平成30年6月閣議決定）

※認定校は2018年11月現在、候補校は2018年6月現在（計135校）
PYP：認定校28校 候補校等24校　MYP：認定校17校 候補校等11校
DP　：認定校42校 候補校等16校

導入の意義

①変化する社会に対応するグローバル人材育成

- ✓ 幅広い知識の**探究スキル**、**課題発見・解決能力**、 **コミュニケーション能力**等を育成
- ✓ 国際的な視野を持ち、AI等の技術革新、将来（Society 5.0）の社会課題に対応するグローバル人材を育成

②初等中等教育の質の向上

- ✓ IBと日本の教育政策の方向性は親和性が高い
- ✓ **「全人教育」を通じた主体的学び**を重視し、初等中等教育の好事例を形成

③国際的通用性

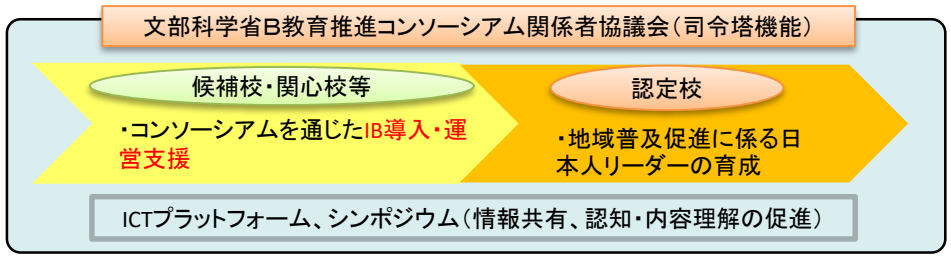
- ✓ IB資格を活用した国内外への進路の多様化
- ✓ **大学の国際化**・活性化

文部科学省の主な取組

○国内推進体制の整備　27百万円（27百万円）

国際バカロレアの普及に係る取組を関係者間で検討し、1条校等での国際バカロレアの導入・運営に対する効果的な支援を行う等の機能をもつ、持続的な普及促進体制の核となる枠組み（コンソーシアム）を構築。

2019年度は、コンソーシアムを通じて1条校等におけるIB導入・運営に係る支援を引き続き促進。



○日本語DP　61百万円（61百万円）

DPの一部科目を、日本語でも実施可能とするプログラム。国際バカロレア機構との協力の下、日本語DP試験を実施。

日本語DPにより、日本人教員の活用機会を拡大することで、日本の学校によるIBの円滑な導入を促進。

（参考）制度的支援等

・DPと学習指導要領を無理なく履修するための教育課程の特例措置
・外国人に対する特別免許状の授与促進等
・大学入学者選抜におけるIBの活用促進

文部科学省IB教育推進コンソーシアム概要

資料５

文部科学省

委託契約

・制度改正の要望
①提言

文部科学省IB教育推進コンソーシアム関係者協議会

【役割】
①日本語DPをはじめとする国内のIB普及状況を把握、課題の解決策を検討し、文部科学省その他関係者に対し提言
②コンソーシアムの活動成果やその目的達成のための課題を把握し、必要な改善策等を助言

【構成員】以下の主体の代表者（構成員全体は15名程度、四半期に１度程度の開催を想定）
・IBに知見を有する有識者
・国内のIB認定校
・IB導入に関心を持つ主体（IB候補校等、地方自治体等）
・IB資格取得者の受入れ主体（大学、企業等）
・IBに関係する活動を目的とする団体（IBAJ、日本国際バカロレア教育学会）
※オブザーバー（文部科学省、国際バカロレア機構）

事務局（アオバジャパン・インターナショナル・スクール）

1)関係者協議会の運営
・会議に係る庶務
・国内関係機関との連携
・国際バカロレア機構との連携

2)Air Campusの運営
・Air Campus実行委員会の庶務（実行委員の選定含む）
・ディスカッションフォーラムの運営
・研究会の庶務、研究テーマの調整、研究会報告書の取りまとめ
・情報発信を含むサイト管理・運営

3)教育実習・授業見学の企画運営
・企画、学校との連絡調整

4)シンポジウムの企画運営
・企画、運営、広報
・国内関係機関との連携

5)一般向けサイトの運営
・サイト管理・運営
・IB普及状況に関する基本情報の調査・情報発信
・問合せ対応

※その他、IB推進に必要な取組

Air Campus（コンソーシアム会員向けサイト）

・俯瞰的、中長期的取組の助言
②助言

報告
・制度的改善が必要な課題
・調査研究の結果

Air Campus実行委員会
- IB教育推進のための現場レベルでの具体的な課題等について情報交換を行うとともに、関係者協議会と連携する
- 実行委員の専門性に応じて、分野別のディスカッションフォーラムの議論についてファシリテーターとして助言を行う
- ディスカッションフォーラム専門性を有するファシリテーターを選定（各1～3名程度、全体15名）

機能1: 分野別ディスカッションフォーラム
- IBに対して関心を有する者が会員登録を行うことで利用可能。
- 会員間の双方向的なコミュニケーションを実現するとともに、Air Campus実行委員がファシリテーターとして助言を行うことで、IB導入等に係る具体的な事例等を提供
- 予定分野（PYP, MYP, DP, 管理職, 行政, IB教員養成, 進路・入試でのIB活用,等）

機能2: 研究会
- IB教育の効果に関する調査研究を行うための研究会（定期的に対面の研究会も開催）
- 国内の幅広い大学等の研究者を含めた調査研究を実施

機能3: 情報発信
- 授業事例の録画と共有、IB導入・運営に係るグッドプラクティスの共有

教育実習・授業見学の受入れ

シンポジウム（年２回）

一般向けサイト

資料６

国際バカロレアに関する公式の日本語資料一覧

＊IB 機構ホームページ「Resources for schools in Japan」のサイトよりダウンロード可能（平成３１年３月現在）

＜PYP に関する資料：指導の手引き等＞
・ＰＹＰのつくり方：初等教育のための国際教育カリキュラムの枠組み

＜MYP に関する資料：指導の手引き等＞
・ＩＢ中等教育プログラム（ＭＹＰ）
・ＭＹＰ：原則から実践へ
「言語と文学」指導の手引き
・プロジェクトガイド
・「個人と社会」指導の手引き
・「理科」指導の手引き
・「数学」指導の手引き
・ＭＹＰ単元指導案
・ＭＹＰ：学校のための認定ガイド

＜DP に関する資料：指導の手引き（科目）等＞
・「知の理論」（ＴＯＫ）指導の手引き
・「知の理論」(ＴＯＫ): 所定課題 課題文見本
・「知の理論」（ＴＯＫ）教師用参考資料
・ＴＫ／プレゼンテーション計画書（2015 年５月以降使用）
・「課題論文」（ＥＥ）指導の手引き 2013 年第１回試験
・「課題論文」（ＥＥ）指導の手引き 2018 年第１回試験
・「知の理論」と「課題論文」のスコア換算表成績評価の説明
・「創造性・活動・奉仕」（ＣＡＳ）補足資料
・「創造性・活動・奉仕」（ＣＡＳ）指導の手引き
・「創造性・活動・奉仕」（ＣＡＳ）指導の手引き　2017 年卒業予定者から適用
・「創造性・活動・奉仕」（ＣＡＳ）教師用参考資料　2017 年卒業予定者から適用
・「言語Ａ：文学」指導の手引き
・「言語Ａ：言語と文学」指導の手引き 2015 年第１回試験
・「言語Ａ：文学」教師用参考資料
・「経済」指導の手引き
・「経済」教師用参考資料

・「地理」指導の手引き
・「地理」教師用参考資料
・地理 ― 説明つきの地図や図に関するルーブリック（評価指標）
・地理「課題論文」（ＥＥ）
・「歴史」指導の手引き
・2017 年 第 1 回試験
・「歴史」教師用参考資料
・「歴史」教師用参考資料　2017 年 第 1 回試験
・「生物」指導の手引き
・「生物」教師用参考資料
・「化学」指導の手引き
・化学資料集 2016 年 第 1 回評価
・「化学」教師用参考資料
・電卓に必要な機能の要件
・物理資料集
・「物理」指導の手引き
・「物理」教師用参考資料
・「数学スタディーズＳＬ」指導の手引き
・「数学スタディーズＳＬ」評価目標 授業・試験用 2014 年第 1 回試験
・「数学スタディーズＳＬ」教師用参考資料
・数学スタディーズＳＬグラフ電卓 教師用参考資料
・数学公式集――数学スタディーズＳＬ
・数学公式集 - 数学ＨＬ・発展数学ＨＬ
・「数学ＨＬ」指導の手引き
・「数学ＨＬ」
・「数学探究」についての付記とガイダンス
・「数学ＳＬ」
・「数学探究」についての付記とガイダンス
・数学公式集 - 数学ＳＬ
・試験での電卓の使用について
・「数学ＳＬ・数学ＨＬ」教師用参考資料
・「数学 SL」指導の手引き
・「音楽」指導の手引き
・「美術」指導の手引き
・「美術」教師用参考資料 2016 年 第 1 回試験
・６／美術―計画・進行用紙（2016 年評価初回使用）pdf [961KB]

・『DP に関するよくある質問(日本語)』
・『国際バカロレア・ディプロマプログラムにおける数学と物理の科目の日本語による実施について』
・ＤＰ：原則から実践へ
・ＤＰ：学校のための認定ガイド
・ＤＰ手順ハンドブック

＜その他、IB に係る資料＞
・『国際バカロレア（IB)の教育とは？』
・『プログラムの基準と実践要綱』
・『IB 2013 年 5 月プレス発表』
・候補校申請記入に関する質問と回答
・『候補校申請に関する学校管理職およびコーディネーター宛文書』
・『国際バカロレアを大学入学審査に生かす』
・『IB が大学準備課程として優れている 10 の理由』
・IBDP 科学科目のための科学実験室についてのガイドライン【改訂翻訳版】
・国際バカロレア大学入試セミナー
・IB スクールによる参加申込み
・IB スクール以外の学校からの申し込み
・学問的誠実性
・「指導の方法」と「学習の方法」
・受験上の配慮の必要な志願者について
・東は東、西は西 ジョージ・ウォーカー
・一般規則:ディプロマプログラム
・ＩＢプログラムにおける「言語」と「学習」
・母語以外の言語による　ＩＢプログラム学習
・ＩＢワールドスクールのための規則：ディプロマプログラム
・一貫した国際教育に向けて